

道議会新庁舎再検討を

札幌の団体 要望書提出へ

道が新しい道議会専用庁舎の来春着工方針を固めたことを受け、札幌の経営者らでつくるまちづくり団体「北海道の未来を拓く会」(新藤大次郎会長)は、道と道議会に再検討を求め、要望書を提出することを決めた。23日に高橋はるみ知事と大谷亨議長、全5会派宛てに出す。

建て替えは道民の理解を得られていないとし「支出総額を道民に示し、道民参加の議論を重ね、説明責任を果たすよう強く要望する」との内容。①どのような説明責任を果たしてきたのか②道民の理解は十分か③9月提出の補正予算案に計上してまで急ぐ必要があるのか—など5点で回答を

求める。

道は9月の道議会に提出する本年度一般会計補正予算案に、建て替え費用として、あらかじめ後の年度の負担を約束する債務負担行為を百数億円盛り込む方針。新庁舎は地上6階、地下1階、延べ床面積1万9千平方メートルの予定。

道は9月の道議会に提出する本年度一般会計補正予算案に、建て替え費用として、あらかじめ後の年度の負担を約束する債務負担行為を百数億円盛り込む方針。新庁舎は地上6階、地下1階、延べ床面積1万9千平方メートルの予定。

道議会建て替え再検討求め要望

札幌の団体、道などに

札幌の経営者や弁護士らでつくる「北海道の未来を拓く会」は23日、道議会庁舎建て替えの再検討を求める要望書を、高橋はるみ知事と大谷亨議長、全5会派宛てに提出した。新藤大次郎会長は提出後、「総額などの情報を開示し、道民の理解を得た上で進めても遅くないのではないか」と記者団に語った。

要望書では①どのような説明責任を果たしてきたのか②道民の理解は十分か—など5点について、9月13日までの回答を求めた。新藤氏はらが道や道議会を訪れ、担当者らに手渡した。道は道議会庁舎の老朽化が激しいとして、9月の道議会に提出する本年度一般会計補正予算案に、地上6階、地下1階、延べ床面積1万9千平方メートルの新庁舎の建設費として、あらかじめ後の年度の負担を約束する債務負担行為を百数億円盛り込む方針。来春着工、2020年春の使用開始を目指す。

道は9月の道議会に提出する本年度一般会計補正予算案に、建て替え費用として、あらかじめ後の年度の負担を約束する債務負担行為を百数億円盛り込む方針。新庁舎は地上6階、地下1階、延べ床面積1万9千平方メートルの予定。